

式辞

水戸川の桜並木の芽も膨らみはじめ、春の息吹がここここに感られるこの佳日に、新生水戸高等学校の第一回卒業証書授与式挙行するにあたり、御多用な中にもかかわらず、熊本県教育委員会から、芦北教育事務所長 藤島浩様の御臨席のもと、熊本県議会から 吉永和世様をはじめ、多数の御来賓の皆様御臨臨賜、生徒保護者・職員一同の上ない喜びとするところであります。心より厚く御礼申し上げます。また、平素から本校教育に対しまして、暖かい御支援御助力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

ただいま、本校の教育課程を修了した全日制普通科一〇三名、商業科三十九名、機械科三十八名、電気建築システム科電気コース十八名、建築コース十四名、そして定時制商業科十二名総勢二百二十四名の生徒諸君に卒業証書授与いたしました。

本日を限りに本校から巣立ちゆく卒業生の皆さん卒業おめでとう。この日を迎えられることは、皆さんの三年間あるいは四年間にわたる努力の成果であることはもちろんですが、その陰には、深い愛情を持って見守ってくださった、家族の方々や先生方など多くの人たちの支えや励みがあったからこそこの事と思えます。その事に思いを致せ、是非、本日の思い出と共にその感謝の気持ちを忘れないようにしていただきたいと思えます。

そして、卒業生の保護者の皆様、本日は誠におめでとうございませう。今、逞く成長た我が子の晴やかな姿目にされ、誕生以来の子どもの成長の早さにその感慨心とおおきく御推察いたします。

さて、卒業生の皆さんは、新生水戸高校の一期生として希望に胸膨らませて臨んだ入学式以来、自然に恵まれたこの水戸の地で、先生方や級友らと共に、様々な活動に取り組みなから、立派に高校生生活全引てきました。

皆様ご存じのように、本校は水戸地区の県立高等学校再編に伴い、水戸高校と水戸工業高校の統合により誕生した新設高校です。新たな学科として熊本県下で唯一の電気建築システム科創設、また、単独の定時制課程では10限目を利用して三年間で卒業できる制度も採用しており、今年の定時制の卒業生の中にも十名が含まれています。

新生水戸高校一期生諸君よ、入学した平成二十四年度、南福寺の旧校舎で新入生として旧水戸高校の先輩達と一年間過ごし、そして二年生となった平成二十五年四月からは、この洗心校舎で初めての後輩となる二期生、水戸工業高校の最後の三年生と

ともに一年間を過ごし、昨年三月には旧水尻高校 水尻工業高校の旧校行事にも参加しました。そして三学年が揃い完成年度となった平成二十六年度は、最高学年として、二年生の後輩諸君と共に新生水尻高校の新しい歴史の一歩なる学校生活に取組むといきわめて波瀾万丈な三年間を過ごしました。そして、その間、新設校としての教育環境の整備は、普通教室棟 芸術棟 商業科棟 定時制教室の改築は二年生四月の移築に間に合いましたが、工業科実習棟の改修 新体育館の新築工事と続き、プレハブの仮設校舎を併用での大変不自由なものでした。また、今年度になって三学年そろった後、図書室や理科教室等からなる特別教室棟の工事について先日まで続き、皆さんの学校生活にも、大変な影響を与えてしまったものと申し訳なく思っております。ただ、これから本校の名物となる特別教室棟と体育館が竣工、市道もまたく渡廊下がようやく完成して皆さんの卒業式に華を添える事が出来たのはせめてもの事でした。

しかし皆さんはそのような状態ものともせず、本校の校訓「自律 敬愛 創造」を基本に履いた教育活動に、全校挙げて取り組む、数々の成果を上げ新しい歴史の一ページを築くことができました。

五月に実施した体育大会は、初めて新生水尻高校単独での開催でしたが、短い準備期間にも関わらず、三年生の力強いリーダーシップのもと例年以上に素晴らしい大会とすることができました。私達職員は、この体育大会を通して君たち新生水尻高校一期生が速く成長している事を実感、卒業までのこの一年間、すべての面での君たちならやれるという自信を持つ事ができました。

新生水尻高校が創設された平成二十四年度から多くの部活動が三校合同のチームで大会に参加していましたが、今年度からは初めて単独校としての参戦となりました。中でもカヌー部は県のインターハイで数多くの入賞を果たし、女子は団体で優勝しました。九州大会 全国大会でも活躍、全国高校総体では田中君が男子カヤックシングルで準優勝、男女カヤックペア、カヤックフォアですべてハイスコアの入賞を果たすなど日本全国に水尻高校カヌー部の実力を知らしめました。その後開催された国体でも本県の代表として、男子カヤックペア、女子カヤックフォアに出場上位入賞を果たしました。また、カヌー部以外でも、新体操部の団体個人の原田君 陸上部800mの内田君、そして熊本県定通体育大会で本校定時制のバスケットボール部が二年連続の優勝を果たして県代表として全国大会に出場しました。また、文化部では音楽部が全国総合文化祭へ、放送部の戸張さんが全国放送コンテストアナウンス部門へ出場するなどいづれも全国で活躍しました。

その他にも皆さんの活躍は枚挙にいとまはありません。熊本県工業高等学校生徒研究発表大会では、電気建築システム科建築コースの課題研究班の生徒たちが「小径丸太廃材を活用する木造校壁の可能性」のテーマで堂々たる発表を行い、惜しくも最優秀賞はなれませんでした。しかし優秀賞を獲得することができました。

そして、商業科、工業科ともに取り組んでいる資格の取得の実績は素晴らしいものがあり、商業科では三種目以上の一級取得の達成者が卒業生三九名中十一名、また、工業科では卒業生七〇名の中で二十二名がジュニアマイスターのゴールド、シルバーを獲得するなどそれぞれ三年間の確かな結果を残しています。そしてこれらの取り組みが水呉高校、水呉工業高校から継続して一〇〇%の就職内定に繋がりました。

ところで、水呉高校には、これらの華々しい成果の外にも、なかなか表立って評価される事は少ないのですが、インターアクティブ中心とした水呉市内外の施設や催物等でのボランティアへの参加や野球部の水呉市御世での清掃活動、グリーンフラッグに参画される、委員会を中心としたゴミの分別などの環境への取り組みもあります。また、昼間は社会人として仕事しながら高校卒業の資格取得のために夜間に学習に取り組んでいる定時制の生徒の皆さん。これらは一人ひとりが自分の行動に責任を持った、前向きな高校生活への取り組みであり本当に素晴らしいことです。先ほど述べた色々な大会の入賞以上に賞賛に値すべき事だと思っています。

ここに私達が見た成果は、卒業生である皆さん一人ひとりの水呉高校生としての努力の賜であり、その取り組み姿勢は必ずやここにいる水呉高校の後輩達へと良い影響として受け継がれていくものと信じています。

さて、皆さんはこれから社会という大海原へ向かっていよいよ船出します。今の日本は、長い不況からの復讐の兆は見えてくるもののまだ不安定な要素が多く、少子高齢化へと進んでいく状況への解決の手立ては手探り状態です。世界に目を向けても至る所で紛争のニュースが飛び交い、平和で心豊かな人類社会を築くためにはまだまだ多くの課題が山積んでいます。ここにいる卒業したばかりの若い皆さんが自由に羽がたける様な状況ではないかもしれません。

しかし、このような困難な中でもこれからの社会の中心となるべく成長していく皆さんには、是非とも自分の夢の実現に向けて、荒波に立ち向かう勇氣を持ってもらいたいです。

多くの困難ある事でしょう。物事を成遂げるためには「決して急がず、されど弛まず」の心がけが大切です。着実に一歩ずつ、一段ずつ階段を上続けてください。

これも一つ、自分自身を完成へと近づけるための大切なキーワードは「忍耐」。

「末遂に 濠なるべき山水も

（はし木の景の下ぐるなり）」

卒業生の皆さん、どうか、多くの困難に対した時自分に負けることなく、弛みない努力と粘り強い精神力で、日本の社会に力強く貢献していただきたいと思います。

最後になりましたが、本日水戸高校一期生が溢立ちます。あらためて新しい水戸高校の創設にあたりご尽力いただきました熊本県教育委員会、物心両面にわたり多大なるご支援と御協力をいただいた保護者の皆様、そして水戸市をはじめとする地域の皆様にお礼を申し上げ、これからも水戸高校卒業生へのご声援をお願いいたします。

いよいよお別れの時になりました。卒業生の皆さん、どうか健康に十分留意、高校生を過して身に付けた水戸高校の卒業生としての誇りを胸に、たゆまぬ前進を続けてください。皆さんの前途に幸多からんことを心より祈念、式をさせていただきます。

平成二十七年三月一日

熊本県立水戸高等学校長

浅見 権治